

参考文献

- (1) 風呂田利夫：東京湾の干潟の過去と現状，東京湾の水質管理と環境ホルモンー東京湾の干潟・浅場・アマモ場の維持と保全ー(第4回東京湾統合沿岸域管理研究シンポジウム講演要旨集)，pp5-7, 2004
- (2) 東京湾河口干潟保全検討会：東京湾河口干潟保全再生検討報告書(平成16年3月)，pp4,283,291, 2004.
- (3) NPO 三番瀬：HP(<http://www.sanbanze.com/npo/>)，「アマモすくすくプロジェクト」
- (4) (財)日本生態系協会：環境アセスメントはヘップ(HEP)でいきるーその考え方と具体例ー，pp30-38, 2004.
- (5) 太田区立郷土博物館 1989. 消えた干潟とその漁業
- (6) 沼田眞・風呂田利夫編 1997 東京湾シリーズ東京湾の生物誌
- (7) 新崎盛敏 1950. アマモ、コアマモの生態 日本水産学会誌 15:567-572.
- (8) 倉島彰・横浜康継・有賀裕勝 1996. 褐藻アラメ・カジメの生理特性. 藻類 44 : 87-94.
- (9) 川崎保夫・飯塚貞二・後藤弘・寺脇利信・渡辺康憲・菊池弘太郎 1988. アマモ場造成法に関する研究，電中研研報総合報告 U14
- (10) 社団法人日本水産資源保護協会 1983 水産用水基準(1983年版)
- (11) 東京都環境保全局 2003. 平成13年度水生生物調査結果報告書.
- (12) 寺脇利信・飯塚貞二 1985. 電源立地地点の藻場造成技術の開発第2報，アマモの成育に及ぼす移植条件の影響. 電中研研報 U485013 : 28.
- (13) 福田富男・安家重材 1979. 天然藻場におけるアマモの分布と消長. 昭和54年度岡山水試事報 : 152-174.
- (14) 山口県水産試験場 1961. アマモの繁殖助長. 調査研究業績 11 : 333-337.
- (15) 道家章生・宗清正廣・辻秀二・井谷匡志 1995. 京都府の海藻-II 宮津湾の海藻の分布. 京都府立海洋センター研究報告第18号 : 22-27.
- (16) 道家章生・井谷匡志・葭矢護 2000. 舞鶴湾におけるアマモ群落の特徴-II. 京都府立海洋センター研究報告第22号 : 29-35.
- (17) 工藤孝浩 1999. 三浦半島、小和田湾における海草群落の分布. 神奈川県水産総合研究所研究報告第4号 : 51-60.
- (18) 高山百合子，上野成三，勝井秀博，林文慶，山木克則，田中昌宏 2003. 江奈湾の藻場分布データに基づいたアマモのHSIモデル. 海岸工学論文集 第50巻. 1136-1140.
- (19) 輪島毅・福島朋彦・有松健・伊東有徳・豊原哲彦・吉沢忍. 2003. 東京湾藻場分布調査ー盤州干潟・富津干潟ー日本海洋生物研究所年報
- (20) 輪島毅・福島朋彦・有松健・伊東有徳・吉沢忍 2002. 豊原哲彦東京湾藻場分布調査ーたたら浜海域・北下浦海域ー日本海洋生物研究所年報.
- (21) 島谷 学・河本 武・中瀬浩太・月舘真理雄 2003. アマモ実生株の生残条件に関する

- 研究. 海岸工学論文集 第 50 巻 : 1096-1100.
- (22)林田文郎 2000. 伊豆半島・岩地湾におけるアマモ群落の垂直分布と季節変動について. 日水誌 66 : 212-220.
- (23)赤澤貴光・川井仁・浜辺聖・石崎修造・桐山隆哉・白井玄爾 2004. 藻場による水環境の改善に関する研究. 長崎県衛生公害研究所報 資料
- (24)川崎保夫・石川雄介・丸山康樹 1990. アマモ場造成の適地選定法沿岸海洋研究ノート 27 : 136-145.
- (25)東京湾環境情報センター HP 関東地方整備局港湾空港部水質データ
- (26)Holmes,R.W.1970. The Secchi disk in turbid coastal waters. *Limnol. Oceanogr.*, 15 : 688-694.
- (27)Bassham,J.A 1977. Increasing crop production through more controlled photosynthesis. *Science* 197:630-638.
- (28)古川厚・須藤静夫 1979. 浅沿海水内の太陽エネルギー分布. 昭和 53 年度浅沿海水内の太陽エネルギー分布に関する事業報告書. 海洋生物環境研究所. pp.70.
- (29)石川雄介・川崎保夫・本多正樹・丸山康樹・五十嵐由雄 1988. 電源立地点の藻場造成技術の開発第 9 報, 水中の光条件に基づくアマモ場造成限界水深の推定方法. 電中研研報 U88010 : 20-21.
- (30)Clough,B.F. and P.M.Attiwill 1980. Primary productivity of *Zostera muelleri* Irmisch ex Aschers. in Westernport Bay(Victoria, Australia).*Aquatic Botany* 9:1-13.
- (31)Phillips, R.C. 1980a. Planting guidelines for seagrasses. Coastal Engineering Technical Aid No. 80-2. U.S. Army Corps of Engineers Coastal Engineering Research Center, Fort Belvoir, Virginia, pp.28.
- (32)日本水産資源保護協会 1992. アマモ類. 環境が海藻類に及ぼす影響を判断するための「判断基準」と「事例」 38-47.
- (33)A.C.Brown 2002. 砂浜海岸の生態学
- (34)網尾勝 1992. アサリの環境について. 水産資源保護協会月報 217 : 4-11.
- (35)井上泰 1980. 山口・大海湾におけるアサリの生態と環境について. 水産土木 16 : 29-34.
- (36)千葉県土木部・企業庁 1999. 市川二期地区・京葉港二期地区計画に係る補足調査結果報告書. 現況編Ⅲ(海生生物)
- (37)柿野純 1982. 青潮によるアサリへい死原因について. 酸素水および硫化物の影響. 千葉水試研報 49 : 1-6.
- (38)風呂田利夫 1991 東京湾底生動物の生き残りと繁栄. 沿岸海洋研究ノート 28 : 160-169.
- (39)東京都環境保全局 2004. 平成 14 年度公共用水域水質調査結果
- (40)千葉県環境生活部 2004. 平成 14 年度公共用水域水質調査結果

- (41)川崎市 2004. 平成 14 年度公共用水域水質調査結果
- (42)横浜市 2004. 平成 14 年度公共用水域水質調査結果
- (43)新保裕美・田中昌宏・池谷毅・越川義功 2000. アサリを対象とした生物生息地適性評価モデル. 海岸工学論文集 47 : 1111-1115.
- (44)高橋清孝・佐藤陽一・渡辺競 1986. アサリの生存限界に関する実験的検討. 宮崎県水産試験場研究報告 11 : 44-58.
- (45)柳橋茂昭 1992. アサリ幼生の着生選択性と三河湾における分布量. 水産工学 19 : 55-59.
- (46)上田卓・山下輝昌 1997. アサリ漁場の造成事例. 水産工学 33 : 213-219.
- (47)藤本敏昭・中村光治・小林信・林 功・瀧口克己・尾田一成・鶴島治市 1983. アサリの漁場形成について. 昭和 58 年度福岡県豊前水産試験場研究業務報告: 34-106.
- (48)横浜市環境保全局 1999. 横浜の川と海の水生物(第 8 報・海域編)
- (49)宮城県水産開発研究センター 1995. 宮城県の伝統的漁具漁法Ⅷ 養殖編(わかめ・こんぶ).
- (50)財団法人海洋生物生態環境研究所 2003. 海藻類の生育と水温・水流. 海生研ニュース : 4-6.
- (51)東京都港湾局 2001. 3 章 藻場造成資料解析整理. p.1-32. 平成 12 年度水環境の改善に資する護岸構造のあり方検討調査報告書.
- (52)横浜康継・野田三千代 1996. 海藻おしぼ. p.35-38. 海遊館, 東京.
- (53)国際エメックスセンター 2004. 閉鎖性海域における最適環境修復技術のパッケージ化. 平成 15 年度環境省環境技術開発等推進事業研究開発成果報告書.
- (54)斉藤雄之助 1965. ワカメの養殖. p.6-15. 水産養殖叢書 2. 日本水産資源保護協会, 東京.
- (55)川那部浩哉・水野信彦 編集.1989.日本の淡水魚.p.669.山と溪谷社
- (56)田中繁雄・金澤光 1999. 県内生息魚類の分布と水質の関係について. 埼玉県水産試験場研究報告 57 号 : 17-37.
- (57)高越哲男・秋元義正 1975. イシガレイの生態に関する研究- I .0 年魚群の成長と生息場. 福島県水産試験場研究報告第 3 号 : 41-50.
- (58)大美博昭・鍋島靖信・日下部敬之 2001. 大阪湾河口域におけるよう稚魚の出現種と種類数の季節変化について. 大阪府立水産試験場研究報告第 13 号:61-72.
- (59)高越哲男・磯上孝太郎・秋元義正・天神憭 1976. イシガレイの生態に関する研究- II 福島県沿における幼稚魚の育成分布とその環境について. 福島県水産試験場研究報告第 4 号 : 33-40.
- (60)有山啓之・矢持 進・佐野雅基 1997. 大阪湾奥部における大型底生動物の動態について II.主要種の個体数・分布・体長組成の季節変化. 沿岸海洋研究 35 : 75-82.
- (61)矢持 進・有山啓之・佐野雅基 1998. 大阪湾沿岸域の環境修復一堺泉北港干潟造成

- 予定地周辺の水質・底質ならびに底生動物相とマコガレイの貧酸素に対する応答－
海の研究 7 : 298-303.
- (62)千葉県企業庁 1998. 平成 9 年生物の生活史調査報告書.
- (63)風呂田利夫 1986. 東京湾千葉県内湾域の底生・付着生物の生息状況、特に群集の衰退が海底の酸欠の指標となりえる可能性についての検討、酸欠期の底生動物相と海底環境指標生物. 千葉県臨海開発地域等に係る動植物影響調査. 千葉県環境部環境調整課. 351-369.
- (64)東京都水産試験場 1990. 東京都内湾生息環境調査報告書(都内湾における底生性稚魚の出現と生息環境)(昭和 59～63 年度).
- (65)桜井善雄・国土交通省霞ヶ浦河川事務所編著. 2004. 霞ヶ浦の水生植物 1972～1993. 変遷の記録.
- (66) (財)リバーフロント整備センター編. 1996. 川の生物図典
- (67)Keddy P. A., Reznicek A. A. 1986. Great lakes vegetation dynamics : the role of fluctuating water levels and buried seeds. *Journal of Great Lakes Research* 12:25-36.
- (68)Keddy P. A. & Reznicek A. A. 1982. The role of seed bank in the persistence of Ontario's coastal plain flora. *American Journal of Botany* 69:13-22.
- (69)Håkanson L. 1977. The influence of wind, fetch, and water depth on the distribution of sediment in Lake Vänern, Sweden. *Canadian Journal of Earth Science* 14:397-412.
- (70)Duarte C. M. & Kalff J. 1986. Littoral slope as a predictor of the maximum biomass of submerged macrophyte communities. *Limnology and Oceanography* 31:1072-1080.
- (71)宇多高明・西寫照毅. 1998. 風波の作用下における湖岸植生の繁茂限界と湖内の漂砂. 「水辺環境の保全と地形学」(日本地形学連合編), pp.112-147. 古今書院, 東京.
- (72)林建二郎・萩原運弘・上原正一・藤間功司・重村利幸. 1998. 水辺植生の水理特性について. *海岸工学論文集* 45:1121-1125.
- (73)Anderson M. R. & Kalff J. 1988. Submerged aquatic macrophyte biomass in relation to sediment characteristics in ten temperate lakes. *Freshwater Biology* 19:115-121.
- (74)Spence D. H. N. 1982. The zonation of plants in freshwater lakes. *Advances in Ecological Research* 12:37-125.
- (75)中村圭吾・門倉伸行・宗像義之・島谷幸宏・宇多高明. 1999. 消波浮島による湖岸植生帯の復元に関する研究. *環境システム研究* 27:305-314.
- (76)桜井善雄・苧木新一郎・上野直也・渡辺義人. 1989. ヨシ植栽地の土壌条件に関する実験的検討. *水草研究会会報* 38 : 2-5.
- (77)藤原宣夫・西廣淳・中村圭吾・宮脇成生. 2003. 霞ヶ浦湖岸植生帯の変遷とその地点間変動要因. 国土技術政策総合研究所資料第 136 号
- (78) 河川生態学術研究会. 2000. 多摩川永田地区における調査研究報告
- (79) 小林哲・松浦修平. 1991. 鹿児島県神之川におけるモクズガニの流呈分布. 日本水産

- 学会誌 57 : 1029-1034.
- (80) 小林哲・松浦修平. 1995. モクズガニ : 649-656. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料(II). 社団法人日本水産資源保護協会.
- (81) 小林哲. 1999a. だからモクズガニの研究は面白い(1)-モクズガニ概論と研究の始まり-. 養殖 1999(1) : 74-75.
- (82) 小林哲. 1999b. だからモクズガニの研究は面白い(2)-通し回遊のプロセサー-. 養殖 1999(2) : 74-75.
- (83) 小林哲. 1999c. だからモクズガニの研究は面白い(3)-上海ガニをめぐる生物学的背景-. 養殖 1999(3) : 90-91.
- (84) 小林哲. 1999d. だからモクズガニの研究は面白い(4)-モクズガニの繁殖生態-. 養殖 1999(4) : 84-86.
- (85) 小林哲. 1999e. だからモクズガニの研究は面白い(5)-河川での生態と飼育の際の注意点-. 養殖 1999(5) : 84-86.
- (86) 小林哲. 1999f. だからモクズガニの研究は面白い(6)-モクズガニ資源の現状と今後-. 養殖 1999(6) : 76-78. Kobayashi S., 1998. Settlement and upstream migration of the Japanese mitten crab *Eriocheir japonica* (De Haan). *Ecology and Civil Engineering* 1 : 21-31.
- (87) 和田 清、小出水規行、今村和志、志村俊輔. 2003. 長良川河口堰「せせらぎ魚道」におけるモクズガニの着底・生息分布に関する現地調査. 河川技術論文集 9 : 493-498.
- (88) 平成 7 年度河川水辺の国勢調査 底生動物調査
- (89) 平成 13 年度河川水辺の国勢調査 底生動物調査
- (90) 山本晃一. 1994. 沖積河川学. 470pp. 山海堂. 東京.
- (91) 和田恵次. 2000. 干潟の自然史-砂と泥の生きる動物たち. 生態学ライブラリー 11. 京都大学出版会, 京都.
- (92) 上月康規・倉田健悟・村上仁士・鎌田磨人・上田薫利・福崎亮. 2000. スナガニ類の生息場からみた吉野川汽水域 干潟・ワンドの環境評価. 海岸工学論文集 47 : 1116-1120.
- (93) 林文慶・田中昌弘・高山百合子・上野成三. 2003. ウェットランドの再生技術-HSI を用いたチゴガニの生息環境評価-. 環境アセスメント学会誌 1 : 25-30.
- (94) 和田恵次. 1976. 和歌川河口におけるスナガニ科 3 種の分布-底質粒度との関係を中心にして-. 生態生理 17 : 321-326.
- (95) 和田恵次. 1982. コメツキガニとチゴガニの底質選好性と摂餌活動. ベントス研究会誌 23 : 14-26.
- (96) 山本晃一・戸谷英雄・福田健一・坂口喜久二(2002) : 霞ヶ浦における湖岸植生回復の検討について, 河川環境総合研究所報告, 第 8 号, 河川環境管理財団.